

## 病性鑑定豚の血清亜鉛濃度及び臍臓における亜鉛分布の検索

茨城県県北家畜保健衛生所

○竹澤詩穂 田邊ひとみ

2025年3月に発育不良を主訴とする豚の病性鑑定を実施し、亜鉛の投与状況、血清亜鉛濃度や臓器の亜鉛染色の結果より亜鉛中毒と診断。亜鉛中毒は亜鉛の過剰投与により発生するが、血清亜鉛濃度や亜鉛染色についての知見は僅少。そこで、過去に病性鑑定を実施した豚（病鑑症例）の血清亜鉛濃度を測定、臍臓のHE染色で病理組織所見を分析し、亜鉛染色を実施することで、知見を得るとともに、亜鉛中毒症例との違いを確認。病鑑症例の農場ごとの血清亜鉛濃度の平均値は52.5～252  $\mu\text{g/dL}$  で中毒症例では382  $\mu\text{g/dL}$ 。臍臓のHE染色では、中毒症例で腺房細胞の変性及び壊死、炎症細胞浸潤や結合組織増生がみられ、病鑑症例では同様の一部の所見が軽度のみられた。亜鉛染色では、中毒症例は腺房細胞がびまん性に高度に染色。病鑑症例では主に脂肪細胞や臍島に染色。腺房細胞がびまん性に染色された1農場では、中毒量に相当する亜鉛の投与を確認。亜鉛は下痢の抑制や増体重増加を目的として投与されているが、過剰量では臍炎や発育不良の原因となり、糞便を堆肥化した際の土壌汚染も問題。今回の検索により、豚の血清亜鉛濃度や臍臓の亜鉛染色動態を把握。今後も症例数を増やし、データを蓄積するとともに、発育不良を主訴とする際には亜鉛中毒の可能性を考慮。また、亜鉛中毒について農家にも認識を広め、亜鉛の適切な使用を呼びかける。